

「全国学力・学習状況調査」の結果概要

1 国語

全体的な傾向

国語 A では、平均正答率は「書くこと」「読むこと」が全国平均より高いが、「話すこと・聞くこと」はさらに努力を要する。国語 B でも同様である。

<分類・区分別集計結果>

【国語 A】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	話すこと・聞くこと	1	60.8	68.0
	書くこと	4	90.5	85.4
	読むこと	2	74.2	68.7
	言語事項	12	61.0	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	60.8	68.0
	話す・聞く能力	1	60.8	68.0
	書く能力	4	90.5	85.4
	読む能力	2	74.2	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	61.0	64.2
問題形式	選択式	5	85.6	80.1
	短答式	12	62.4	65.9
	記述式	1	60.8	68.0

【国語 B】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	話すこと・聞くこと	5	60.4	61.3
	書くこと	2	16.0	14.5
	読むこと	3	58.4	56.5
	言語事項	2	55.7	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	44.7	46.0
	話す・聞く能力	5	60.4	61.3
	書く能力	2	16.0	14.5
	読む能力	3	58.4	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	55.7	59.7
問題形式	選択式	2	71.1	65.8
	短答式	2	49.5	48.7
	記述式	6	44.7	46.0

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

【話すこと・聞くこと】

- A 司会の進め方の良いところを説明する設問については正答率が、全国平均を下回っている。
- B 話し手の立場や意図をとらえて聞く出題では、全国平均よりかなり高い。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率は、全国平均より高い。特に文章の内容に合わせて小見出しを書く設問の正答率は全て94%以上である。
- B 報告文のまとめとして「調べて分かったことを書く」ことの設問の全国平均正答率が低く課題があるが、本校では全国平均率を上回っている。

【読むこと】

- AB 領域の平均正答率は、全国平均より高い。特に段落の内容を的確に捉える設問は全国平均より約4%高い。
- B 筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりして書く設問の正答率は全国平均よりやや低い。目的や意図に応じて自分の考えをまとめることに課題がある。

【言語事項】

- A ローマ字の読みの正答率は全国上回っていた。
- AB 漢字の書きについては、出題された漢字によって正答率に差が見られたり、個人差が見られたりするなど、定着に課題がある。

国語に関する児童質問紙調査の状況

【児童質問紙】

「国語の勉強が大切」であり「国語の授業で学習したことは、将来、役に立つ」と考えている児童の割合が、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせて90%を超え、国語を肯定的に捉えている児童が多い。しかし、「国語の勉強は好き」と答えている児童は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせて50%程度である。

「国語の授業の内容がよく分かる」と答えた児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせて、86%で全国平均を上回っている。また、「授業ではノートを丁寧に書いている」と答えた児童の割合も、全国平均を上回り、80%を超えている。

国語の授業で、「考えを書くときに理由が分かるように書く。」「資料を読んで自分の考えを話したり書いたりしている。」という質問に対して、「している」「どちらかというとしている」と答えた児童の割合も、全国平均を上回っている。国語の授業に対し前向きに意欲的に取り組んでいると考えられる。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

小グループによる学び合いの場を設定することにより、全員が話しをする機会を増やし、発言者の意見や提案をよく聴いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする力を育てる。本年度の学校課題、「学び合い」の研究を生かし、国語以外の学習活動でも、相手の立場や考え方を大切にし、話し手の意見を踏まえた発言ができる態度や能力を育てていく。

【書くこと】【読むこと】

物語文や説明文の読み取りだけではなく、グラフや資料と文章を関連付けて主張や理由を読み取り、内容を要約して書く力を育てるために、総合的な学習の時間や他教科と関連付けた学習展開を工夫していく。

【言語事項】

漢字を書く力の向上を図るために、週2回朝の10分間の漢字学習の時間を充実させるとともに、読解力の向上のために、プリント教材の導入等を図っていく。

また、日記や作文指導を通して、既習の漢字を使う機会を日常の生活の中で設けていく。

2 算数

全体的な傾向

- 算数 A・算数 B とともに平均正答率は、全国平均を上回る。特に算数 A では、平均正答率が全国平均を 1 ポイント以上上回っている。

<分類・区分別集計結果>

【算数 A】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	9	84.2	82.8
	量と測定	3	77.3	78.5
	図形	3	80.1	81.3
	数量関係	3	69.4	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての表現・処理	12	79.1	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	81.4	80.8
問題形式	選択式	5	81.9	76.7
	短答式	13	79.1	79.5
	記述式	0		

【算数 B】

分 類	区 分	対象設 問数	平均正答率 (%)	
			本校	全国
学習指導要領 の領域	数と計算	6	56.9	55.8
	量と測定	6	60.1	59.9
	図形	4	53.1	56.4
	数量関係	4	60.6	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	10	46.0	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	77.6	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0		
問題形式	選択式	2	70.1	68.9
	短答式	7	65.4	63.7
	記述式	5	34.4	36.8

※ 1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

分類・区分別の傾向と課題

●…課題があるもの

【数と計算】

○AB 領域の平均正答率は、全国平均より高い。

●A 数直線から数を読み取ることは、定着にばらつきがある。

【量と測定】

○B 領域の平均正答率は、全国平均より高い。

●A 図形の長さや角度を求める問題の正答率が高いが、図形の性質を基に特定の辺の長さを考えたり、面積を求めたりする問題については課題がある。

【図形】

●AB 基本的な図形の知識の定着に個人差がある。また、長方形の横の長さから円の半径を導き出す考え方を記述する設問の正答率が低い。これは、示された解決方法を理解し、見方を変えた別の方法で表現する力が弱いことに課題がある。

【数量関係】

○AB 領域の平均正答率は、全国平均より高い。

算数に関する児童質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

○「算数の勉強が好きか。」という設問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えている児童の割合が、70%を上回っている。これは全国平均より高く、本校児童が算数を好んでいる様子が伺える。また、「算数の勉強は役に立つと思うか。」「算数の授業の内容はよく分かるか。」「あきらめずにいろいろな方法を考えるか。」などの項目で、算数を肯定的に捉えた回答が全国平均を上回っていた。

○「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか。」「問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いているか。」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は、全国平均より高い。このことから、児童が算数の学習に対し意欲的なことが分かる。

●算数 B では、「解答時間が十分でなかった。」と答えた児童の割合が全国平均よりも高かった。本校児童はじっくりと問題に取り組む傾向にあることが分かる。

指導改善のポイント

【数と計算】【量と測定】【数量関係】

本校で実施している、個に応じた学習や少人数指導、週 2 日朝の 10 分間を算数の基礎的な力の定着の時間に位置付けていること等が効果を上げてきていると考えられる。今後とも、これらの一層の充実を図っていく。

また、問題に対して解決方法を考え説明し伝え合う活動に、今後さらに積極的に取り組み、他者の考えを基に、見方を変えて新しい解決方法を考える力を育てていたり、自分の判断やその根拠となる考えを、言葉や式、図などを用いて記述する活動を充実させたりしていく。自分の考えを表現する場面で、式だけで表現している児童には、言葉を用いて説明するよう促す。

さらに、児童の高い意欲を生かし、積極的に日常の事象と結び付けて関連を図っていく。

【図形】

学習した図形を身の回りから見いだす活動や、見いだした図形のどの情報を用いれば問題を解決できるかを考える活動を積極的に取り入れるなど、既習内容の活用が図られるような課題設定を工夫する。

3 児童質問紙調査

●…課題があるもの

《傾向》

- 「朝食を毎日食べていますか」の問いに対しては、94.8%の児童が食べている」と答えている。「すくすくカレンダー」で毎日チェックしている成果と思われる。
- 「何時ころ寝ますか」の問いでは、「午後9時から10時までに寝ている」と答えた割合が60%を超えており、84.6%の児童が8時間以上の睡眠をとっている。
- テレビやビデオ・DVDを見る時間が1日当たり、「3時間以上4時間未満」と「4時間以上」と答えた児童の割合の合計が45.4%であり、全国平均とほぼ同じである。
- テレビゲームを1日当たり「2時間以上」やると答えた児童の割合は、20.6%であり、全国平均より2.8ポイント低い。一方、インターネットを1日あたり「2時間以上」やると答えた児童は10.4%で、全国平均より3.1ポイント高い。
- 学校の授業以外の学習時間は、「平日1日平均1時間以上」が70.1%で全国平均を12.9ポイント上回っており、「すくすくカレンダー」で毎日チェックしている成果と思われる。
- 1日あたりの読書量は「30分以上」読んでいると答えた児童は44.3%で全国平均より9.1ポイント高い。
- 「学校のきまりを守っていますか」「友達との約束を守っていますか」の問いでは、95%を超える割合で「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えており、規範意識が定着してきていることが伺える。
- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」という問いでは「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合が、94.9%と高い。また、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」という問いに対しても、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合が85.5%であり、全国平均より11.4ポイント高い。ものごとをやりとげた喜びを味わった経験が、失敗を恐れずに挑戦していく意欲につながっていると思われる。
- 「近所の人に会ったときはあいさつをしていますか」という問いでは、「当てはまる」と答えた児童が59.8%で全国平均より3ポイント低い。